

令和6年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく
-------------------	---

今年度の重点目標	1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく (1)進路目標の明確化 (2)基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく (1)基本的生活習慣の確立 (2)部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく (1)学校行事・生徒会活動の充実 (2)教育活動における安全意識・安全技術の向上 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく (1)「地域探究」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 (1)業務の精選と組織的な実施 (2)生徒への適切な対応
----------	--

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

〔90%〕 〔70%程度〕 〔50%程度〕 〔35%程度〕 〔20%以下〕

年 度 当 初					評 価 結 果 (3) 月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和5年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	○ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> ・生徒アンケート「私は、進路について明確な目標を持っている」 「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○1年生:進路ガイダンス等の行事や進路学習を体系的に行い、キャリア形成を図る取り組みを行った。 ○2年生:3回の進路志望調査を通して進路先候補について比較・調査を行い、キャリア形成の意識が高まりつつある。 ○3年生:総合的な探究の時間を活用し、将来のキャリアを意識した進路別学習を行うことができた。丁寧な担任面談と個別指導により生徒の進路実現が達成できた。 ○全学年:教職員を対象とした小論文指導研修や大学訪問等を通して、多様化する入試制度に対応するために必要な教職員の進路指導力の向上に努めた。 <R5実績> ・生徒アンケート「私は、進路について明確な目標を持っている」・・・81% 「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」・・・85%	○1、2、3年ともに「ふるさとキャリア教育全体計画」をもとに、「総合的な探究の時間」や「LHR」の年間計画を見直し、「地域探究」や進路LHRを通して地域社会の担い手となるための志と具体的なキャリア目標を設定するための意識を高める。 ○1年次より進学希望者に対しては「自己理解」→「学問研究」→「学校研究」、就職希望者に対しては「自己理解」→「業種・分野研究」→「具体的職業調べ」の順に進路学習を行うことで進路意欲を高めるとともに、早期にキャリア形成を促す。 ○引き続き、ボランティア活動や大学等の研修会への参加を奨励し、地域とのつながりを実感することで社会への関心を高め、将来の生き方・在り方を考えるよう促す。 ○「スタディサブリ」を活用し、資格取得や進路志望別に必要な学習教材や面接動画を配信し、学力の定着を図ることでキャリア目標達成につなげる。	○「総合的な探究の時間」と「LHR」は概ね計画通りに実施できた。変更にも臨機応変に対応し、進めることができた。 ○1年生:進路適性診断や学部・学科調べを行うとともに、進路ガイダンスや大学訪問、「地元企業に学ぶ」を通して進路意識の高揚を図った。また、類型・科目選択を通して早期のキャリア形成を促した。 ○2年生:地域探究や進路LHRにおいて自身のキャリアに応じた学問・学校研究、業種・分野研究を進めた。 ○3年生:総合的な探究の時間を活用し、将来のキャリアを意識した進路指導を行うことができた。丁寧な担任面談と個別指導により生徒の進路実現が達成できた。 ○学年団と連携しながら、地域のボランティア活動や夏季休業中の保育・看護体験、大学等の研修会への参加を推奨し、多くの生徒が参加した。高大連携事業である大学進学研修プログラム参加(3年生延べ21名)。部活動単位や社会探究類型生徒によるボランティアの参加があり、地域社会とのつながりを実感する機会が増えた。 ○各学年・教科で「スタディサブリ」を活用し、学習教材や動画を計画的に配信することで基礎学力の定着や資格取得につなげている。 <R6実績>生徒アンケート結果: (A+B) ・「私は、進路について明確な目標を持っている」・・・80% ・「学校は、きめ細かな進路指導を行っている」・・・84%	B	○1、2、3年ともに「ふるさとキャリア教育全体計画」をもとに、「総合的な探究の時間」や「LHR」の年間計画を修正し、「地域探究」や進路LHRを通して地域や社会の担い手となるための志とそのための具体的なキャリア目標を設定させる。 ○1年次より進学希望者に対しては「自己理解」→「学問研究」→「学校研究」、就職希望者に対しては「自己理解」→「業種・分野研究」→「具体的職業調べ」の順に進路学習を行うことで進路意欲を高めるとともに、早期にキャリア形成を目指す。 ○引き続きボランティア活動や大学等の研修会への参加を奨励し、地域とのつながりを実感することで社会参加への関心を高め、将来の生き方・在り方を考えさせる。 ○他校の事例等も参考にしながら、到達度テストを含むスタディサブリのより効果的な活用方法について検討していく。
	基礎学力の向上	○どの生徒も授業を大切にし、主体的に授業に取り組んでいる。 <指標> ・生徒アンケート「私は、本校の授業に満足している」 「私は、授業に集中して取り組んでいる」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○1年生:リメディアルと学習習慣定着を目的にスタディサブリを活用するとともに習熟度に対応した授業展開や個別指導などを行い、基礎学力の定着に努めた。 ○2年生:授業で学力をつけることを主眼に捉え、習熟度に対応した考査内容、課題提出の徹底、遅進者への学習指導を計画的に行った。 ○3年生:各授業において、定期的に課題を課すとともに小テストを行い、学力の定着を図った。また、大学進学希望者に対して、長期休業中や9月以降の放課後で課外授業を行い、学力向上に努めた。 <R5実績> ・生徒アンケート「私は、本校の授業に満足している」・・・85% 「私は、授業に集中して取り組んでいる」・・・86%	○1年生:個別面談や授業を通して学習の意義を丁寧に伝え、学習に取り組む姿勢を育てる。 ○2年生:類型・習熟度に応じて、家庭で学習に取り組めるよう適切な課題の提示、小テストの取り組みを継続する。 ○3年生:学力の定着や進路意識を高める進路講演会を行うとともに、具体的な学習目標を設定し、達成感のある学習に取り組むよう支援する。 ○全学年:基礎学力の向上に向けて、全教職員共通理解のもと授業改善に努める。授業「わかる」→課題「できる」→確認テスト「できるを確かめる(実感する)」のサイクルを回す。 ○「スタディサブリ」を活用し、苦手分野克服のための教材や動画も配信することで学び直しを行い、授業が「わかる」ための支援を行う。	○1年生:数・英の授業では習熟度別少人数授業を行い、「わかる」から「できる」授業へつながるよう学習支援を行っている。冬季休業中の課外は、未来類型選択者を対象に学習への取り組み方も含め、国・数・英の3教科で実施した。 ○2年生:主に未来・社会・スポーツの3類型に分かれて授業を行い、それぞれ進路目標に応じた学習方法を提示し学習意欲向上を促している。 ○3年生:まず授業で、自身の進路目標達成のために必要な学力を身に付けるよう学習を進めた。課外授業や個別指導も継続的に実施している。 ○全体:授業における校外模試の位置づけを議論し、模試の問題が解けるよう指導を行うようにしている。 家庭学習時間調査の有効活用について協議し、より有効に活用できるよう改善を行っている。 成績上位者への声掛けと、個別指導を行っている。 <R6実績>生徒アンケート結果: (A+B) ・「私は、本校の授業に満足している」・・・89% ・「私は、授業に集中して取り組んでいる」・・・91%	A	○1年生:生徒には、個別面談や授業を通して学習の意義を丁寧に伝え、学習に取り組む姿勢を育てる。 ○2年生:習熟度に応じて、家庭で学習に取り組めるよう適切な課題の提示、小テストの取り組みを継続する。 ○3年生:学力の定着や進路意識を高める進路講演会を行うとともに、具体的な学習目標を設定し、達成感のある学習に取り組ませる。 ○全学年:生徒が主体的に学習に取り組む授業の心掛け、教科書の内容の理解を促すとともに、計画的な課題を提示し家庭学習に取り組ませ、個別に声をかけられるように学習時間調査の方法を工夫をする。成績上位者への個別指導を継続し、進路目標にあった指導を続ける。また、「スタディサブリ」の活用状況を教職員間で共有するとともに、志望進路に応じた学習教材や動画を配信する。
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的生活習慣の確立	○生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 <指標> ・生徒アンケート「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○生徒会執行部とともに教室点検を実施した。点検結果を生徒玄関前に掲示し、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。 ○服装検査での指導件数は減少してきている。また、生徒指導については、指導票の活用とともに、保護者への連絡をとりながら、生徒指導を進めている。 <R5実績> ・生徒アンケート「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」・・・97%	○教職員の日々の声かけにとどまらず、保護者への連絡の機会を逃さず行い、基本的生活習慣の確立、マナー・モラルの向上を図る。 ○生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動を継続していく。 ○定期的に学年間での情報共有を行い、全学年で統一した認識のもと生活指導を行うとともに、機会をとらえて、生徒の規範意識の醸成を図る。 ○生徒会が主体となり、執行部を中心に教室環境の整備や学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取り組みを通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識が多くの生徒に身に付くよう促す。	○学年団・生徒会と協力し、整理整頓など教室内の学習環境の整備等に努めた。 ○生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動や登校の見守りを継続して行った。 ○常に保護者への連絡を行い理解と協力を得ながら、生徒指導を進めている。頭髪・服装や遅刻で指導を受ける生徒が一定数いる。 <R6実績>生徒アンケート結果: (A+B) ・「私は、より良い生活習慣及びルールやマナーを身につけ、落ち着いて生活できている」・・・94%	B	○頭髪・服装指導と併せて、家庭連絡をその都度行い、家庭と協力して改善を図る。 ○遅刻をしてくる生徒には、個別に指導を行うとともに、家庭への連絡を随時行い、協力して改善を図る。
	部活動の充実	○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身についている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コース及びスポーツ探究類型の生徒は、講演会や講習会を通してトップアスリートを目指し、意識レベルを高めている。 <指標> ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ70名(全校生徒の3割)以上となる。	○体育コースの行事については、3年キャンプ実習、ゴルフ実習、2年生スキーを予定通り実施した。 ○3年体育コース(23名中)で上級学校へ進学する生徒は13名おり、その内4名が競技を継続する。 <R5実績> ・県大会優勝6部。全国大会出場9部、全国大会出場者数のべ70名。	○体育コース及びスポーツ探究類型の各種講演会を計画通り実施していき、競技力向上を促す。 ○トップアスリート講演会及び養成研修を実施することで、現在行っている競技の継続や医療(理学・作業)・福祉系の上級学校への進学意識を高める。 ○強化指定運動部を中心とし、全国レベルで活躍するために必要な競技力及び人間力を高めるために対話を重視した練習を行う。 ○地域ボランティアに積極的に参加するよう促すことで、学習・ボランティアサークルへの加入を促進する。	○クラス数・生徒数の減少で、本校単独での団体競技チームの活動継続が困難になる中、男子バレー部が全国大会で活躍し、学校のPRに大きく貢献した。ビーチバレーでも国民スポーツ大会で全国入賞を果たした。 ○2年研修旅行の中で1日目に環太平洋大学、2日目履正社スポーツ医療専門学校・びわこ成蹊スポーツ大学を見学し、上級学校への進学意識を高めた。 ○3年体育コース(23名中)上級学校へ進学希望する生徒は12名おり、その内9名(進学7名、就職先2名)が競技を継続する。 <R6実績> ・県大会優勝6部 ・全国大会出場9部 ・全国大会出場者のべ41名	B	○今後のスポーツ探究類型の取組として、トップアスリート講演会やトップアスリート養成研修会を実施し、競技力向上につなげていく。 ○スポーツ探究類型のスポーツ栄養講座やスポーツマッサージの講習会などは2年生の1学期の段階で実施し、早期に効果を出すよう取り組む。

年 度 当 初					評 価 結 果 (3) 月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和5年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・生徒会活動の充実	○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。 ○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。 ＜指標＞ 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができる」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○育英祭は、生徒主体で短期集中して準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。 ○新旧執行部が協力して、運動会や球技大会を行い、生徒が主体となった学校づくりを進めた。 運動会では、運動会実行委員会を中心に企画・準備段階から意識をもって取り組めた。 ○10月に行われた運動会では、生徒会執行部を中心に、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。昨年度に続き、集団行動では、2・3年生の体育コースが合同で集団行動に参加し、大成功を収めた。 ＜R5実績＞ ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができる」・・・93%	○生徒会行事をスムーズに進めるため、生徒たちが主体となって運営できるように、早めに育英祭実行委員会を中心に立案・運営を行う。 ○引き続き、行事ごとにルールを遵守し、生徒が主体となって取り組むよう支援する。	○育英祭は、生徒主体で短期集中して準備ができた。初めて小体育館で実施したが、非常に盛り上がった。事後アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。 ○運動会は雨天のため大体育館で実施し、3年体育コース、2年スポーツ探究類型生徒による集団行動も予定通り行った。室内での開催であったが実行委員等をはじめ生徒の頑張りにより非常に盛り上がった。 ○球技大会は新執行部の運営に課題を残した。 ○体育コースの行事については、11月に3年ゴルフ実習を行い、練習会も含めて実施できた。2年生のスポーツ探究類型は、特別活動の中で1月に宿泊ありで3日間スキー実習を開催した。 ＜R6実績＞生徒アンケート結果：(A+B) ・「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができる」・・・ 94%	A	○生徒会が主体となり、教室環境の整備やあいさつ運動などに取り組むことで、より多くの生徒がより良い学校づくりに主体的に参画する意識を高める。 ○生徒会行事をスムーズに進めるため、前年度中に育英祭実行委員会を立ち上げ、企画立案を行う。 ○体育コースで培ってきたノウハウをスポーツ探究類型での取組において継承・発展させる。
	教育活動における安全意識・安全技術の向上	○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 ＜指標＞ 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切に教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○救急救命講習を2月26日に実施し、生徒約100名、教職員約30名が参加した。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月・7月)2学期に1回(10月)3学期に1回(2月)に実施する予定である。その結果は、環境保健部と各学年、管理職で情報を共有し、その後の面接指導に活用した。 ＜R5実績＞ ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切に教育を行っている」・・・87% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・86%	○避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○救急救命講習については、この講習が導入された経緯・趣旨を踏まえて、教職員・運動部員の全員受講を目指して継続していく。 ○「学校生活に関する調査」は、次年度も各学期に1回以上実施し、日常的な保健・相談業務を継続していく。	○救急救命講習は、2月25日に実施予定。(運動部生徒・教職員が参加予定である) ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月と7月)2学期に1回(10月)実施し、3学期に1回(2月)に実施する予定である。その結果は環境保健部と各学年、管理職で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。 ＜R6実績＞生徒アンケート結果：(A+B) ・「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切に教育を行っている」・・・92% ・「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・ 92%	A	○次年度も、避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○救急救命講習については、この講習が導入された経緯・趣旨を踏まえて、教職員・運動部員の全員受講を目指して継続していく。 ○「学校生活に関する調査」は、次年度も各学期に1回以上実施し、日常的な保健・相談業務を継続していく。 ○スクールカウンセラーをはじめ、外部機関とも連携し、組織的かつスピーディーな対応を行う。
地域を支える社会人として必要な資質が身につく	「地域探究」の発展・充実	○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。 ○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。 ○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現につながった。 ＜指標＞ 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「鳥取県(中部/北栄町)」について、知識・理解が深まった」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、 ①「人の役にたつ生き方をしたい」が平均5%以上向上 ②「地域の人と協働できている」、「自分からすすんで地域行事に参加しようと思う」が平均5%以上向上 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。	○1年生:地域探究入門は、18時間の活動を行った。「地域を知る」をテーマに、地域の大人と関わることで地域の一員としての自覚を養った。 ○2年生:地域の方々の協力のもと、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題をみつけ、その解決を考察し、発表にまとめた。 ○3年生:卒業時アンケートにおいて、「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、昨年度より向上して62%だった。 ＜R5実績＞ ・1年生:「鳥取県(中部/北栄町)」について、知識・理解が深まった」・・・89 % ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して1. 1%上昇した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・62% 【地元の魅力をたくさん知った】・・・65% 【地元で働きたい】・・・46% 【地元で暮らしたい】・・・48%	○1年生:探究活動への意欲を高めるために1学期にキャリア意識を高める取り組みを行う。そして、「探究入門」の授業を2学期から開始することで、流れの途切れない活動とする。また、客観的な分析に必須である「アンケート」や「インタビュー」の手法について学ぶ時間を取り入れる。 ○2年生:地域探究は、大テーマを提示して各類型ごとに目標設定を行うことにより、探究テーマをより生徒の興味・関心に合うものにつづ、地域課題解決に貢献できる内容へ近づける。 ○3年生:引き続き、進路別学習や教職員とのこまめな面談を通して、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身のキャリア目標の明確化を図る。	○1年生:地域探究入門は、24時間の活動を行った。「地域を知る」をテーマに、地域の大人と関わることで地域の一員としての自覚を養った。 ○2年生:地域の方々の協力のもと、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題をみつけ、その解決を考察し、発表にまとめた。12月の中部ハイスクールフォーラムに3名の生徒が参加し、代表として発表を行った。探究活動の中から生じた疑問や課題解決への提言を北栄町高校生議会という形で町に発信した。 ○3年生:卒業時アンケートにおいて、「「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、昨年度より向上して65%だった。 ＜R6実績＞生徒アンケート結果 ・1年生:「鳥取県(中部/北栄町)」について、知識・理解が深まった」・・・92. 3 % ・2年生:事前・事後アンケートで、「人の役にたつ生き方をしたい」が平均して9. 6%上昇した。 ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域の人と協働できている」、「自分からすすんで地域行事に参加しようと思う」の高まりが平均して10. 4%上昇。 ・3年生:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」・・・65% 「地元の魅力をたくさん知った」・・・80%、「地元で働きたい」・・・67% 「地元で暮らしたい」・・・80%	A	○1年生:探究の基礎基本の習得を1学期の「キャリア探究」から2学期から始まる「地域探究入門」へとつなげることで、2年次の「地域探究」に向けた企画力・実践力を養成する。 ○2年生:各類型ごとに目標設定を行うことにより、探究テーマを生徒の興味・関心に合致するものとし、スライドや発表方法等の工夫を進める。 ○3年生:1・2年次に取り組んだ「地域探究」の内容をベースにして、ふるさと鳥取県の良さを再考するとともに、「地域探究」での学びの成果を大学入試や就職試験に活用し、それぞれの進路実現を目指す。
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。 ＜指標＞ 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について、声掛けを行い、業務内容などの聞き取りや業務量の確認をすることで教職員自身の自覚を促すことで、時間外業務の減少につながっている。 ＜R5実績＞ ・時間外業務が月45時間を超えた教職員は2人、年360時間を超えた教職員は2人。	○引き続き、教職員のシステム入力を徹底し、適宜声掛けを行う中で、時間外業務削減への見通しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。 ○引き続き、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、意識や意欲を高め、限られた時間内での活動の効率化を図る。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について確認している。教職員への声掛けを行い、業務内容の聞き取りや業務量の確認をすることで教職員自身の自覚を促し、時間外業務の減少につながっている。 ＜R6実績＞(1月末現在) ・時間外業務が月45時間を超えた教職員は1人、年360時間を超えた教職員は0人。	A	○引き続き、教職員のシステム入力を徹底し、適宜声掛けを行う中で、見通しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。 ○引き続き、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日頃から生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会等を通して意識や意欲の向上に努め、限られた時間内での活動の効率化を図る。
	生徒への適切な対応	○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。 ＜指標＞ 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。	○3年生の進路指導を組織的に行えるよう、職員会議等で教職員の共通理解を図った。 ○総合選抜や学校推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ＜R5実績＞ ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員は0人。	○昨年度の進路指導で成果の出た取り組みを継承し、引き続き3年生の進路指導を組織的に行う体制を整え、生徒の個別指導を教職員で協力して行う。	○3年生の進路指導を組織的に行うことができるよう、職員会議等で教職員の共通理解を図り、協力体制を整えた。 ○総合型選抜や学校推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で分担することで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくする工夫を行った。 ＜R6実績＞ ・3年生の受験シーズン期(9～12月)における時間外業務で、月45時間を超える教職員は0人。	A	○引き続き、3年生の進路指導を組織的に行う体制を整え、生徒の個別指導を教職員で協力して行う。